

Press Release

2014年3月10日

メドピア株式会社

「抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬（2013-2014シーズン）」について タミフルを選択する医師が4割以上を占めている

医師約6万人以上が参加する医師専用サイト「MedPeer」（メドピア、<https://medpeer.jp/>）を運営するメドピア株式会社<東京都渋谷区、代表 石見陽（医師）>は、会員医師を対象に「抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬（2013-2014シーズン）」についてのアンケートを実施し、以下のとおり、結果を取りまとめました。

医師専門サイトMedPeer調査結果：「抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬（2013-2014シーズン）」について（総回答：3,575人）

順位	回答	回答数（人）	占有率
1	タミフル	1,662	46.5%
2	イナビル	1,218	34.1%
3	リレンザ	313	8.7%
4	抗インフルエンザウイルス薬を処方する機会は無かった	265	7.4%
5	ラピアクタ	92	2.6%
6	その他の薬剤	25	0.7%
-	合計	3,575	100.0%

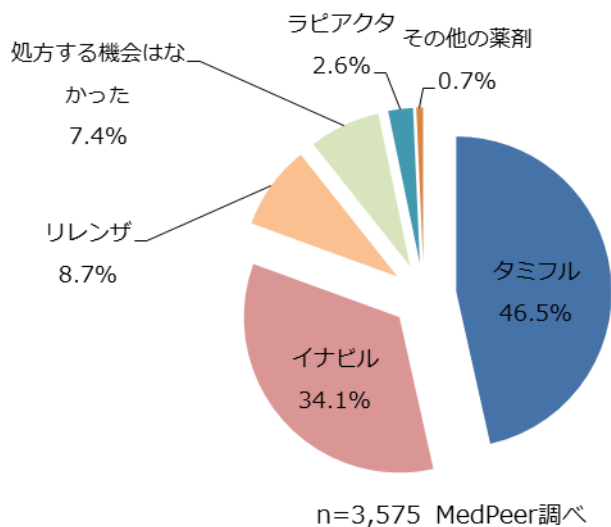
サマリー：

- 医師専門サイトMedPeer（メドピア）に登録する医師（6万人以上）を対象に「抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬（2013-2014シーズン）」について質問をしたところ、3,575件の回答が寄せられた。
- 「タミフル」を選択したのは、46.5%。「使い慣れている」というコメントが最も多い。そのほかに、「過

去の実績からも一番信頼性がある」「吸入よりも確実に投与できる」といった声があった。

- 「イナビル」は34.1%。「1回で治療が済むので簡便」「年齢による制限が少ない」といった声がある。吸入指導を看護師や薬剤師に依頼すると、特に医師の負担はないようだ。
- 「リレンザ」は8.7%。吸入薬だが、1回限りではないので、「失敗しても繰り返しチャンスがある」「5日間きちんと吸入することで、病識をもって過ごしてもらえる」といった声があった。

▼総合結果



回答コメント (回答一部を抜粋)

「タミフル」 1,662件

- ・現在のところ、タミフルしか採用していない。タミフルのみで、何とか乗り切れている。(50代、一般外科)
- ・お年寄りはおまぐ吸入できないことも多いので。(50代、一般内科)
- ・使い慣れているので10代を除けば第一選択です。(30代、消化器外科)
- ・高齢者が多いのと、使い慣れているので。今のところ耐性症例には遭遇していません。(30代、循環器内科)
- ・イナビルの吸入は出来ない人が多い。(40代、耳鼻咽喉科)
- ・高齢者やADLが低い患者が多い病院のため、吸入薬は使いづらく、経管投与も可能なタミフルを第一選択薬としています。(50代、総合診療)
- ・服用の確実性、処方した例は効果良好でした。耐性もやや効果が薄れる程度との話ですし、一番使いやすい印象。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・使い慣れている。早めに投与すれば今シーズンも効果がかなり見られていた。(40代、精神科)
- ・吸入よりも確実に投与できる可能性が高いと思います。(50代、小児科)
- ・耐性の問題はありますが、今まで一番使い慣れているので、やはり処方数は多くなります。高齢者が多いので異常行動も特に問題有りません。(50代、一般内科)
- ・数字からだけではタミフルが一番多いのですが、A型の成人と小児のA型、B型に処方、リレンザを10歳代のA型と吸入

可能な年齢のB型インフルエンザに処方することを原則としている。(70代、一般内科)

- ・内服が確実です。高齢者や子供、咳が強い人の吸入失敗例をみておりますので。(40代、一般内科)

「イナビル」 1,218件

- ・一回完結型で便利である。また、今冬、タミフル、ラピアクタ耐性株が検出されているのも理由の一つではある。(50代、一般内科)
- ・耐性が少なく、簡便なので吸入できれば第一選択です。(30代、精神科)
- ・病院で確実に投与できるので。(40代、一般内科)
- ・タミフル、リレンザはいくら指導しても途中でやめてしまう患者がいるので。(40代、緩和医療)
- ・その場で治療が終了するので、患者さんからの評判はいいです。(40代、腎臓内科・透析)
- ・毎週一般外来と一次救急で外来をしています。原則10代には吸入薬、5歳以下の子供には原則タミフル、その他の歳の子供には吸入できるかどうか確かめてからタミフルか吸入薬か選んでもらっています。吸入薬は99%の人がイナビルを選んでいきます。(50代、小児科)
- ・看護師、薬剤師の前で吸入していただけるので安心です。(40代、血液内科)
- ・小児にはうまく吸入できないと言われましたが、さほど問題となる症例はありません。即効性もありよいかと思います。(40代、泌尿器科)
- ・夜間救急で使用する機会が多いので一回で投薬終了のため、これにしています。(50代、一般内科)
- ・イナビルの妊婦への投与の安全性に関してはまだ十分なデータはありませんが、吸入式であり胎児への影響はほとんどないと考えております。(30代、産婦人科)
- ・薬剤師さんが吸入を指導してくれるので、外来で時間とられずにすみます。(30代、耳鼻咽喉科)

「リレンザ」 313件

- ・耐性は少なく、再発熱も少ない。どうみても周囲より優れていると思います。(50代、一般内科)
- ・腎機能障害患者さんでは減量の必要があり煩雑なので吸入を使うことが多い。(イナビルは上手に吸入できない人には向かないのであまり使わない) (50代、腎臓内科・透析)
- ・耐性への問題、早期からの解熱効果はリレンザがベストです。(50代、小児科)
- ・耐性ウイルスの報告もなく、B型に対しても効果が高いと聞きました。(50代、一般内科)
- ・小児科なので年齢により違いますが、吸入可能な学童ですと、失敗しても繰り返しチャンスのあるリレンザを選択することが多い。(40代、小児科)
- ・院内在庫調整のため、リレンザを使用するようになっています。(50代、循環器内科)
- ・耐性が確認されておらず、一発勝負でないところが安心できる。(40代、呼吸器内科)
- ・1日投与も魅力ですが、患者さんから治療した気がしない！との声もありリレンザにしています。(30代、神経内科)
- ・5日間きちんと吸入することで、病識をもって過ごしてもらえます。タミフルよりも患者さんの印象もよいです。(40代、一般内科)
- ・A型インフルエンザウイルスに対して耐性が出てなく、吸入から効果発現まで短時間で済むため。(50代、一般内科)

「抗インフルエンザウイルス薬を処方する機会はなかった」 265件

- ・内科の専門の先生にお任せします。(40代、皮膚科)
- ・自分で処方する機会がなかった。(40代、整形外科・スポーツ医学)

「ラピアクタ」 92件

- すべての薬を説明した上で、患者に選択させますが、今シーズンはラピアクタの希望が圧倒的に多くなっています。(40代、一般外科)
- 重傷者が多いため多くは点滴を使用している(50代、循環器内科)
- 十分な血中濃度を確保できるため耐性ウイルスにも有用であると考えられるため。(30代、呼吸器内科)
- 単回ですみ確実に血管内に投与できるものがよいと思います。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- 1回点滴したあと3日間安静で済むのでファーストチョイスにしています。(50代、アレルギー科)
- 入院するような患者しかみていないもので、点滴にしています。(50代、麻酔科)

「その他の薬剤」 25件

- 患者さんに説明し、希望薬を処方しています。(40代、代謝・内分泌科)
- 解熱剤のみで、抗インフルエンザ薬処方しません。(40代、小児科)
- 漢方薬をメインにしています。基礎疾患のない人には抗ウイルス剤は不要かと。(40代、小児科)

※調査方法

□期間：

2014年2月17日（月）～ 2014年2月23日（日）

□有効回答：

3,575人（回答者はすべて、医師専門サイトMedPeerに会員登録をする医師）

□設問：

医師専用サイト MedPeer内の「ポスティング調査」コーナーにおいて、MedPeer事務局（運営：メドピア株式会社）より、以下の質問を投げかけました。

調査フォーム（設問文 抜粋）

今期の抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬（ファーストライン・ファーストチョイス）はどの薬剤でしたか？

国内では抗インフルエンザウイルス薬として、タミフル、リレンザ、ラピアクタ、イナビル等が主に用いられており、昨年実施した本テーマではタミフルをご選択される方が最も多いという結果になりました。

・抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬は？（2012/13シーズン）

https://medpeer.jp/posting/view/detail?question_id=1998123

しかし今期は、突然変異によりタミフル、ラピアクタの耐性をもつ新種ウイルス【A(H1N1)pdm09】が発見されたことにより、タミフル以外の抗インフルエンザウイルス薬を第一選択薬とする機会も多かったのではないのでしょうか。

今期の抗インフルエンザウイルス薬の第一選択薬を以下の選択肢より、ご選択いただき、その理由をコメント欄にご記入ください。

-
1. タミフル
 2. リレンザ
 3. イナビル
 4. ラピアクタ
 5. その他の薬剤
 6. 抗インフルエンザウイルス薬を処方する機会はなかった

【本件に関するお問い合わせ先】

メドピア株式会社 管理部 TEL：03-6805-0345 / e-Mail：info@medpeer.co.jp

【記事掲載に際してのお願い】

- ・「医師専用サイト MedPeer 調べ」、であることの明記をお願い致します。
- ・web 上での引用に際しましては、<https://medpeer.jp> へのリンクをお願い致します。

MedPeer

MedPeer は、メドピア株式会社が運営する、医師専用のインターネットサイトです (URL: <https://medpeer.jp/>)。会員医師同士による情報共有サービス「薬剤評価掲示板」や、特定疾患治療に関するエキスパート医師による情報提供「Meet the Experts (MTE)」、有名臨床指定病院の所属医師参加のオンライン症例検討会「インタラクティブ・ケース・カンファレンス」などを MedPeer 上に設け、“臨床の決め手がみつかるとして、多くの医師に利用されています。現在の会員は 6 万人以上で、日本の医師の約 4 人に 1 人が利用するサービスです。また、「薬剤評価掲示板」では、約 1,900 の医療用医薬品に対して、26 万件以上の医師会員による処方実感、クチコミ評価が投稿されています。

以上